

令和元年度事業報告（案）

1 会議の開催

実行委員会総会を令和2年2月11日に開催したほか、主催者等による幹事会を2回開催した。

2 フェアの開催

フェアは、平成31年4月25日から令和元年6月16日の53日間にわたり、メイン会場の長野県松本平広域公園、サブ会場の国営アルプスあづみの公園と長野県烏川溪谷緑地に加え、主催4市ではサテライト会場を設けて開催した。

期間中、メイン・サブ会場には、想定の50万人を上回る70万人の来場者が訪れた。

（1）会場整備

- ・質の高い花や緑を来場者にご覧いただくため、主催者展示花壇の植栽、灌水・除草のほか、フェア後も展示した花壇の維持管理を行った。
- ・フェア後に花壇や仮設工作物の撤去などメイン会場の復旧工事を行った。
- ・各サテライト会場実行委員会に対して必要な支援を行った。

（2）庭園や花壇の出展

- ・企業や団体、自治体などから292作品の出展があり、これらの展示及びフェア期間中の維持管理、修繕補修を行った。
 - 企業、団体、学校等からの出展（庭園）：87作品
 - 自治体からの出展（庭園・花壇など）：60作品
 - 県民・市民からの出展（ハンギングバスケットなど）：145作品
- ・各種出展作品のコンテスト（庭園出展（4/22）、ハンギングバスケット・コンテナガーデン（6/7）、来場者人気投票（5/11～12））を開催した。
- ・出展作品を紹介するガイドブックを制作し、来場者へ配布した。

（3）会場運営

- ・誰もが楽しめる会場とするため、総合案内所や情報センター、ベビールームなどの設置、通訳を含む会場案内、迷子や遺失拾得物への対応、車椅子の貸出などのサービスを提供した。

- ・来場者等の安全を確保するため、通門管理や会場警備のほか、救護所を設置した。
- ・来場者の安全・確実・快適な交通アクセスを確保するため、駐車場管理、シャトルバスやロードトレインの運行、団体バスの受入れ、交通誘導サインの設置、駐車場空き情報のWEBページ運用を行った。
- ・固定店舗と移動販売での飲食・物販営業の出店管理を行った。
- ・フェア期間中、延べ1,678名のボランティアが参加し、会場運営サポート、会場サービス、花緑の維持管理を行った。

(4) 観客誘致・広報宣伝

- ・県内外から誘客を図るため、ポスターやガイドブック、バナーやのぼり旗等を商業施設や交通機関などに掲出・設置するとともに、公的広報を活用した情報発信やイベントでのPR活動を行った。
- ・マスメディアを活用した広報として、県内外の新聞・雑誌への広告掲載、県内民放4局でのテレビCM、ラジオ番組出演による情報発信を行った。
- ・フェア公式ホームページやフェイスブック、ツイッターを活用した情報発信、インスタグラムを活用したフォトコンテストを行った。

(5) 行催事

- ・内覧会(4/23)、テープカットセレモニー・開会式(4/25)、閉会式(6/16)、来場者達成セレモニー(10万人、50万人、60万人、70万人)を開催した。
- ・「劇団四季」「いわさきちひろ」など信州ゆかりのアーティストによる特別企画展のほか、来場者が花や緑と気軽に触れ合える体験プログラムや信州の魅力を発信するイベント、県内メディアをはじめ既存イベントや企業・団体・行政などと連携した催事を開催した。
- ・サブ会場では、信州の花・緑を通じた新たな気づきや発見を促す学びと体験の機会となる様々な催事を開催した。

(6) 協働推進

- ・小学生らの参加によるメイン会場の協働大花壇づくりのほか、人材育成に向けた「花・緑スキルアップ講座」や「信州花フェスタ花緑ガイド養成講座」をそれぞれ開催した。
- ・県内各地の花や緑を楽しめるスポット「信州グリーンシェアスポット」(224箇所)について、ガイドブックによる情報発信やスタンプラリーを行った。

3 フェア後の取り組み

- ・緑化の推進に向けては、協働大花壇で採取した種を、県内すべての小中学校等や、花壇づくりに参加した団体や希望者などへ配布したほか、次期開催地である「ひろしまフェア」に提供した。またメイン会場では、来年度に向けた花壇作りを住民と協働で行った。
- ・緑化の啓発に向けては、県内4地区でのパネル展や県内イベントでのブース出展のほか、フェアの記憶を後世に伝える記念プレートなどをメイン会場に設置した。
- ・フェアの公式記録の制作や、フェア開催による効果を検証するため、来場者へのアンケート調査の集計・分析、経済波及効果の算出を行った。